

学力向上に向けた取組について

グローバル化、高度情報化が急速に進展するこれからの時代を生き抜くための人づくりが求められている。子供たちに、変化に柔軟に対応し、社会を創造し、先導するための能力が身につけられるよう、学力向上に向けた取組をさらに進めていかなければならない。全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえ、新学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」を基本に、今後さらに取組を進めていく。

1 全国学力・学習状況調査の結果

※全国平均正答率との比較 (%)

学年	教科	R1 (H31)	H30		H29	H28
小学校 6年生	国語	-2	知識(A)	-1	-1	±0
			活用(B)	-1	+1	±0
	算数	±0	知識(A)	-3	-1	-1
			活用(B)	-1	+1	±0
理科			±0			
中学校 3年生	国語	+1	知識(A)	+2	+3	+1
			活用(B)	+1	+2	+1
	数学	+2	知識(A)	+3	+4	+5
			活用(B)	+1	+2	+3
	理科			+2		
英語	+1					

- ・中学校では、全教科・項目で全国平均を上回っている。小学校では、ほぼ全教科全国平均並みか1～3%下回っている。
- ・本年度から知識・活用問題が統合されたが、小学校国語が全国平均を2%下回っている以外は、全国平均並みもしくは上回っている。
- ・全国、本県と同様、「知識」に関する問題(A)に比べ、「活用」に関する問題(B)に課題が見られる。
→知識・技能の確実な定着を踏まえ、思考力・判断力・表現力等のさらなる育成が必要である。

2 本年度の重点的な取組 ※別紙参照

(1) 子どもの学習意欲を高める取組

- ・グローバル化に対応したコミュニケーション能力の定着を図るためALTの配置を増やす。
小学校3・4年生 8時間(年間15時間)、小学校5・6年生 25時間(年間50時間)
- ・「AKASHI ENGLISH CAMP」を実施し、英語に興味のある児童の能力をさらに伸ばす機会をもつ。
- ・市指定研究授業を実施。本年度は「外国語(外国語活動)」、「道徳」、「主体的・対話的で深い学び」をテーマに指定校で取り組んでいる。

(2) 豊かな心の育成への取組

- ・本のまちと連携した読書活動の一層の推進を図る。
- ・全小中学校に学校司書を配置し、全中学校においては「ビブリオバトル」を実施し、読書活動の推進と表現力、コミュニケーション能力の育成を図る。
- ・パラリンピックの魅力を伝えるため、「I'm POSSIBLE」を使った授業を全小中学校で実施、また、ボッチャ体験を全小学校で実施する。

(3) 学習環境を支える取組

- ・小学校1年生30人学級を実施し、きめ細やかな指導を行い教育の充実を図る。

(4) その他

- ・コミュニティ・スクールを導入し、「地域とともにある学校」を目指す。
- ・小中一貫教育を推進し、子どもたちの学びと育ちの接続を図る。

3 今後の取組

- 9月 ・市教委で今回の結果を分析(経年変化、成果と課題、指導事例他)
※結果分析資料を小・中学校に送付
・市教委HPに結果分析資料を掲載
- 10月 ・校長会で報告、資料を参考に各校で結果分析するよう指示
- 12月 ・県教委主催の「学力向上シンポジウム」開催(校長・教諭・指導主事等が参加)
- 1月 ・各校が作成した結果分析資料の収集
- 2月 ・各教科担当者会で研修(各教科の成果と課題、今後に向けての指導について周知)